

島根大学医学部 研究業績報告集第11号の発行によせて

(旧) 島根大学との統合を直前に控えた平成15年7月に、第10号(平成13年～14年)が発行されて以来、遅れていました第11号(平成15年～16年)がようやくまとまりました。

この研究業績報告集は、島根医科大学の開学以来、発行が続けられてきました。しかし、平成15年10月の大学統合や平成16年4月の法人化に伴って、大学や医学部の組織や委員会の編成が変わり、研究業績報告編集専門部会が廃止されていたため、研究業績報告集の編集責任があいまいになっていました。平成17年10月に医学部長に就任した直後に、研究業績報告集11号をホームページに掲載し、かつCD版として発行する方針を決め、総務課の総務担当室と情報管理室に中心となっていていただいて編集作業をすすめました。ホームページ(学内掲示板)を活用して編集を行い、編集委員会を立ち上げることもなく完成を見る事ができました。総務課の担当者を始め、ご協力をいただいた皆様に深くお礼を申し上げます。このような編集方法は、業務の効率化に資するものであり、今後の業務の進め方に示唆を与えるものと考えております。

さて、この業績集にみられるように、医学部の研究業績は年々増加し、国際雑誌に掲載される論文が多くなっています。とくに、遺伝子や分子生物学の手法を用いた研究は、基礎研究ばかりでなく、疫学調査や臨床の症例研究にまで広がりを見せています。今後、島根大学医学部がその存在意義を大学の内外に示していくためには、これらの先進的な研究成果が地域の住民の保健・医療・福祉にどのように還元され、その貢献がいかに地域の人々に理解され、評価されるのかにかかっていると言っても過言ではありません。その意味でも、今後の大学からの情報発信が重要になってくると思います。この研究業績報告集の積み重ねがそのための資料になることを願っています。

今後も2年に1回のペースで報告集を作成する方針ですので、第12号(平成17年～18年)は平成19年7月の発行を予定しています。

平成18年3月

医学部長

益 田 順 一